

まちの色彩

まちにはさまざまな色彩があふれています。建物や看板、商品の色。皆さんが着ている服の色もあります。これをにぎわいと感ずる場合もあれば、落ち着きがないと感ずる場合もあります。人によって感じ方が異なる色彩ですが、色相、明度、彩度の3つの尺度で数値化することができます。色相は、赤や黄、青といった色味の違いです。明度は明るさのことで、明度が高いほど白っぽくなり、低いと黒っぽくなります。彩度は鮮やかさのことで、彩度が高いほど色味が強くなり、低いと淡くなります。



まちで見かける赤色にもさまざまなものがあります

似たような色彩でも、素材によって印象が変わります。伝統的町並みでは、木や石、漆喰、レンガなど、自然素材や伝統的素材が多く使われています。これらは色彩に微妙なむらがあり、時とともに味わいを増していきます。また、同じ場所でも、新緑や紅葉など季節の移ろいとともに目に入る色彩が変化します。色彩に着目して見ると、見慣れた景色も違って見えてくるかもしれません。

*市では、良好な都市景観を形成するため、建物などの外壁に使える色彩に一定の基準を設ける予定です。

いなほ会



20年ほど前、芳野地区の野菜農家の女性たちが集まってできたのが「いなほ会」。

かつてはそれぞれの家で受け継がれてきた知恵や技を、地域の宝として残していけるよう、味噌作りや正月料理の勉強などを行っています。また、伊佐沼農産物直売所の設立のときには、手打ちうどんなどの加工品部門の立ち上げに多くのメンバーが貢献しました。

会長の田中テル子さん(石田本郷)は、「農業は自然相手の自営業。どうしても周囲との交流が少なくなりがちなので、親睦を図るためにも重要な会です」と話します。4月29日に行われた「かわ

ごえ春の農業まつり」では、草餅の実演販売を披露し、多くの人でにぎわいました。「最近では農家でも草餅を作る家が少なくなりました」と話すいなほ会の皆さん。農家ならではの伝統を守り、次代に伝えていくため、これからも活動を続けます。



いよいよ販売開始、草餅を作る手にも自然と力が入ります

今が旬！6月の川越野菜 市内の直売所などで購入できます

じゃがいも、トウモロコシ、いんげん、枝豆、ごぼう、キャベツ、トマト、きゅうり、ネギ、ナス、小松菜、ブロッコリー、タマネギ、かぶ、にんじん、チンゲン菜



ポンプの脇では育苗中の苗が緑色に輝いていました

田園地帯では、田植えが始まりました。表紙の撮影をした5月中旬に立ち寄った田で、代かきや田植えの様子を眺めていると、どこからか水の音が。周囲を見渡すと地下水をくみ上げるポンプから勢いよく水が流れていました。子どもの頃、水に手を伸ばし、その冷たさに驚いたことを思い出しました。

緑

がまぶしい季節になりました。市内を移動していると、水と緑の組み合わせが映える光景を目にします。川越水上公園は休日になると、家族連れやカップルでにぎわいます。水の上を流れる爽やかな風を感じられる園内の池では、多くの人がスワンボートや手こぎボートに揺られています。

編集後記

ぐんぐん